

1 本年度の重点教育目標

◆主体的に考え表現し、学び続ける子◆
 重点化して育成する資質・能力「自分の考えをもつ力」「自分で表現する力」

2 本年度の取組の重点

◎よき社会人となるために必要な資質・能力を明確にし、保護者・地域と共有して編成した教育課程の実施・評価・改善
 ◎各教科固有の見方・考え方を働かせ、自己調整しながら協働的に学ぶ授業づくりの推進
 ◎ICTの活用、少人数を生かしたきめ細やかな指導による個別最適な学び（個に応じた指導）の充実
 ◎縦割り活動の一層の充実やICTの活用、地域のひと・もの・ことと関わりながら学ぶ活動を通じて、児童の主体性・自己有用感等を育む協働的な学びを推進
 ◎各学年に応じて育成する資質・能力を明確にし、地域の特色を生かした探究的な活動を展開する全体計画及び年間指導計画に基づく活動の推進と見直しを図る

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
人を大切に する力	子どもたちは、自分にはよいところがあると思っているか。	b	日常の学習や学校行事を通して児童の主体性を尊重し、自己存在感や自己有用感を高める取組を行ってきた。一方で、児童によって自己肯定感の高まりに差が見られることから、今後は個に応じた声かけや認め合う場面を意図的に設定し、一人ひとりのよさや持ち味をより実感できるよう改善を図っていく。	B	A	学校生活の中で子ども達の良さを大切にする取り組みが行われていました。
	子どもたちは、人が困っているときは、進んで助けているか。	a		A	A	
自分の 考えを 持つ力	子どもたちは、自分と違う意見について話し合いで解決しようとしているか。	a	一人一台端末の活用を進めるための研修を行い、学校・家庭の双方でICTを活用した学習が定着してきている。今後は、端末活用を目的化するのではなく、児童一人ひとりの思考を深める手立てとして、実態に応じた指導の工夫をさらに充実させていく。	A	A	
	子どもたちは、課題の解決に向けて、これまでの経験や学習で学んだことをもとに、自分の考えをもつことができているか。	a		A	A	
自分で 表現す る力	子どもたちは、自分の思っていることや感じていることをきちんと伝えることができているか。	b	学校全体で言語活動を重視し、考えを言葉で表現し伝え合う取組や、端末を活用した交流活動を行ってきた。しかし、表現に苦手意識をもつ児童も見られることから、今後は学習形態の工夫や段階的な表現活動を取り入れ、多様な方法で自分の思いや考えを表現できる力の育成を図っていく。	B	A	言葉で伝える学習が大切にされていると感じました。今後も児童の考える力を伸ばす指導を希望します。
	子どもたちは、わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することができているか。	b		A	A	
挑戦す る力	子どもたちは、将来の夢や目標をもっているか。	a	学習や行事を通して成功体験を積み重ね、児童が自信をもって取り組めるよう支援してきた。今後は、学びの見通しをもたせる工夫や、取組の過程における自己評価・相互評価をより意識的にを行い、失敗を恐れず挑戦しようとする姿勢をさらに育成していく。	A	A	子ども達が挑戦する姿を大切にする取り組みがなされていました。
	子どもたちは、難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。	b		B	A	
学校に おける 指導体 制等の 充実	教育目標の実現に向けて教職員が適切な役割を果たすとともに、相互に連携しながら教育活動に取り組むことができたか。	a	業務内容の精査や役割分担の工夫により、教職員が連携しながら教育活動に取り組む体制づくりを進めてきた。今後も、担任が児童と向き合う時間を確保するとともに、安心・安全な学校環境の整備と働き方改革を一体的に進めていく	A	A	
	学校における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	a		A	A	
家庭・ 地域と 連携・ 協働し た教育 活動の 充実	コミュニティ・スクールの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	b	地域の素材を生かした学習活動を進めてきたが、取組のねらいや成果が十分に共有されていない面も見られた。今後は、情報発信の工夫を通して保護者・地域との相互理解を深め、地域とともにある学校づくりを一層推進していく。	B	A	地域との連携を大切にしている取り組みがなされていた。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか。	a		A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

